



2024 年度 年次総会 議事次第

一般社団法人 国際 P 2 M 学会

日 時 : 2024 年 4 月 20 日 土曜日 13:00~13:30

開催形式: 対面及びオンラインによるハイブリッド開催

議事

- | | |
|---------|-------------------|
| 第 1 号議案 | 議長と総会開催要件の確認 |
| 第 2 号議案 | 学会会員数の報告 |
| 第 3 号議案 | 2023 年度 学会活動報告 |
| 第 4 号議案 | 2023 年度 事業収支報告 |
| 第 5 号議案 | 2024 年度 基本方針と活動計画 |
| 第 6 号議案 | 2024 年度 事業収支計画 |
| 第 7 号議案 | 2024 年度 人事 |

報告事項	2023 年度 表彰者
------	-------------

第 1 号議案

議長と総会開催要件の確認

1 開催と議長

当学会（一般社団法人）の定款では「社員総会」（4 章）について年に 1 回 4 月か 5 月の開催、必要がある場合に開催する（13 条）、「総会の議長は、代表理事（会長）がこれに当たる」（16 条）との規定がある。これにもとづき社員総会を開催する。

2 総会成立要件

成立要件は「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総社員（会員）の議決権の 10 分の 1 以上を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う」（18 条）と規定されている。以下成立要件を確認する。

総社員数 174 名（正会員 145、学生会員 20、法人会員 5、名誉会員 4）

出席者数 47 名（委任状 17 名を含む）

以上の数を確認の結果、総会の成立を認めることにする。

3 総会の権限

社員総会は、次の事項について決議する（12 条）とある。関連議案があるので、ご参照をお願いします。

- （1）社員及び会員の除名
- （2）理事及び監事の選任又は解任
- （3）理事及び監事の報酬等の額
- （4）貸借対照表及び損益計算書ならびにこれらの付属明細書の承認
- （5）定款の変更
- （6）解散及び残余財産の処分
- （7）その他社員総会で決議するものとして法令又は本定款で定められた事項

以上

第 2 号議案

学会会員数の報告

定款第 5 条会員の規定による分類に従い、2024 年 4 月 1 日の学会会員数を報告する。

① 正会員	145 名
② 法人会員	5 社
③ 学生会員	20 名
④ 名誉会員	4 名（学会に貢献した外国人研究者及び名誉会長・会員）

以上

第 3 号議案

2023 年度学会活動報告（案）

（事業期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

1. 定期研究発表大会

（1）第 35 回春季研究発表大会

- ・ 日時 : 2023 年 4 月 22 日(土)
- ・ 開催校 : 東京都市大学横浜キャンパス
- ・ 開催方法: ハイブリッド形式
- ・ テーマ: 「SX(Sustainability Transformation)×DX(Digital Transformation)を支える P2M」
- ・ 実行委員長 : 東京都市大学環境学部教授 岡田公治
- ・ 実行副委員長 : 千葉工業大学社会システム科学部教授 下田篤
- ・ 大会企画委員会委員長 : 沖浦文彦 (東京都市大学 都市生活学部教授)
- ・ 大会企画委員会副委員長: 小笠原秀人 (千葉工業大学 社会システム科学部教授)
- ・ 予稿集編集委員長: 佐藤達男
- ・ 大会参加者数: 50 名
- ・ 研究発表: 21 件 (PM・研究開発・社会開発 5 件、企業経営、教育・人材育成 4 件、地域開発 4 件、ビジネス・国際開発 4 件)

・ 特別講演:

テーマ: P2M Ver5.0 の提唱

講演者: 吉田邦夫氏 (国際 P2M 学会名誉会長)

討議者: 亀山秀雄副会長、佐藤達男評議員

・ 基調講演:

(1) DX(Digital Transformation)の本質と推進課題

山本修一郎 氏 (名古屋国際工科専門職大学教授)

(2) SX(Sustainability Transformation)の本質と重要性

佐藤真久 氏 (東京都市大学環境学部教授)

・ パネル討論:

テーマ: SX×DXの相乗効果、P2Mとの相乗効果

モデレータ: 岡田公治氏 (東京都市大学環境学部教授)

パネリスト: 山本修一郎氏 (名古屋国際工科専門職大学教授)

佐藤真久氏 (東京都市大学環境学部教授)

端山毅氏 ((株) NTTデータ、PMI 日本支部会長)

田隈広紀氏 (千葉工業大学社会システム科学部准教授)

(2) 第36回秋季研究発表大会

- ・ 日時 : 2023年10月29日
- ・ 開催校 : 同志社大学
- ・ テーマ : 「哲学と P2M で拓く ソーシャル・イノベーションの地平」
- ・ 実行委員長 : 同志社大学総合政策科学研究科 ソーシャル・イノベーションコース教授
大和田順子
- ・ 実行副委員長 : 国際P2M学会理事 早稲田大学環境総合研究センター
AEONTOWA リサーチセンター副代表 岡田久典
- ・ 大会企画委員会委員長 : 沖浦文彦 (東京都市大学 都市生活学部教授)
- ・ 大会企画委員会副委員長 : 小笠原秀人 (千葉工業大学 社会システム科学部教授)
- ・ 予稿集編集委員長 : 加藤智之 (名古屋工業大学ものづくりDX研究所客員研究員)
- ・ 大会参加者数 : 80名
- ・ 研究発表 : 22件 (P2M 5件、ビジネスマネジメント 4件、人材育成・企業経営 4件、
地域開発・ODA 4件、地域環境基金特別セッション 5件)
- ・ 招待講演 :
 - 大島圭子 氏 ((独) 環境再生保全機構地球環境基金部地球環境基金課副主幹)
- ・ 「地球環境基金のこれまでとこれから」
- ・ 基調講演 :
 - (1) 出口康夫 氏 (哲学者、 京都大学大学院文学研究科 教授)
「GX時代における哲学、IからWeへ」
 - (2) 中嶋愛 氏 (『スタンフォード・ソーシャルイノベーションレビュー日本版』
編集長、同志社大学ソーシャル・イノベーションコース 客員教授)
「ソーシャル・イノベーションの新潮流」
- ・ 特別講演 :
- ・ 中島恵理 氏 (同志社大学総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース 教
授) 「SDGsとNPO活動のこれから」
- ・ パネルディスカッション :
 - テーマ : ソーシャル・イノベーションを通じて持続可能な社会を実現する
 - モデレータ :
大和田順子氏 (同志社大学総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース
教授)
 - パネリスト :
 - 出口康夫 氏 (哲学者、 京都大学大学院文学研究科 教授)
 - 中嶋愛 氏 (『スタンフォード・ソーシャルイノベーションレビュー日本版』
編集長、同志社大学ソーシャル・イノベーションコース 客員教授)

斎藤俊幸 氏（地域再生マネージャー、地域活性化伝道師／イング総合計画代表
福嶋慶三 氏（環境省近畿地方環境事務所環境対策課長 兼地域脱炭素創生室長）
亀山秀雄 氏（国際 P2M 学会会長、独立行政法人環境再生保全機構（ERCA）社会
実装支援コーディネーター）

（３）第 7 回 ASCON-IEEChE 2023

- ・日時 : 2023 年 12 月 4 日～7 日
- ・場所 : 韓国 江陵市 スカイベイ ホテル キャンポ Skybay Hotel Gyeongpo
- ・セッション : Project and Program Management
- ・発表件数 : 8 件（出席 : 吉田、亀山、山本、久保、沖浦、李、論文のみ : 和田、富永）
- ・学会の国内委員 : 吉田、山本、亀山、李、
- ・第 8 回 ASCON-IEEChE 2025 開催月 : 12 月（予定） 開催国 : 日本 場所 : 広島

2. 機関誌の発行

研究発表大会規程および機関誌規程にもとづき、以下の機関誌を発行し学術登録機関の
科学技術振興機構（JST）の電子ジャーナル登録・公開システム J-STAGE に登録した。

（1）研究発表大会予稿集

第 35 回春季研究発表大会の予稿集は佐藤達男予稿集編集委員長が中心となって発行、
第 36 回秋季研究発表大会の予稿集は加藤智之予稿集編集委員長が中心となって発行
し、それぞれの大会運営を円滑に行うことができた。

（2）国際 P2M 学会誌

武富学会誌編集委員長が中心となり、2023 年 10 月 21 日に Vol. 18, No. 1 を、
2024 年 4 月 5 日に Vol. 18, No. 2 を発刊した。

（3）P2M マガジン

亀山編集長のもと、2023 年 5 月 30 日に第 18 号（特集「SX(Sustainability Transformation)×DX(Digital Transformation)を支える P2M」）、2023 年 9 月 9 日に第
19 号（特集「リスクリソ／リカレント教育における P2M の役割」）、佐藤編集委員長の
もと 2024 年 1 月 15 日に第 20 号に 2023 年度秋季研究発表大会 特特集 1「哲学と
P2M で拓くソーシャル・イノベーションの地平」のほか 2 つの特集（特集 2「地球環境基
金特別セッション」、追悼特集「故西尾雅年先生を偲ぶ」）を発刊した。

3. 学会活性化事業

（1）ステアリングコミッティ（運営委員会）

学会の持続的発展を強力に推し進めるため、研究発表大会企画、論文誌編集、P2M マガジン編集、セミナー企画の 4 委員会の代表および推進責任者が集まり、それぞれの活動の運営上の課題について対処方針を決定した。2023 年 5 月から合計 12 回開催した。

(2) セミナー企画委員会

昨年度に引き続き、セミナー動画 5 本（ウェビナー 2301～2305）を掲載し、P2M の普及と新領域開拓を進めた。動画の分野別内容は、オープン・アジャイル・P2M イノベーション、GX 人材育成関連である。

(3) 表彰委員会

表彰規程にしたがい、正会員からの推薦書をもとに表彰委員会で審議した結果、以下の表彰者を決定した。

学会賞	：	武富 為嗣
研究賞	：	関口 幸治
研究奨励賞	：	加藤 智之
教育功労賞	：	越島 一郎
学会活動功労賞	：	和田 義明、白井 久美子
国際交流賞	：	李 洸昊

4. 学会誌の DOAJ (Directory of Open Access Journal) への収載

「2023 年春季大会の投稿論文から CC ライセンスを付与し DOAJ 収載の要件を満たす投稿規程の適用を開始した。」

5. 他学会との協力

(1) ASCON-IEEChE 2023 KOREA

「第 7 回アジア革新的エネルギー・環境化学工学会議 ASCON-IEEChE 2020 KOREA」が 2023 年 12 月 4 日～7 日、韓国 江陵市スカイベイホテルで実施され同会議の P2M セッションで日本から 8 本の論文が提出され、2 年後の 2025 年は日本の広島で開催することが決り、広島大学の松村教授を中心に本学会から 3 名が国内委員として参加することになった。2025 年は本学会創設 20 周年に当たる年なので、韓国、台湾との P2M 関連での国際連携を深める良い機会となる。

(2) 協賛/後援大会

昨年度の研究発表大会に引き続き第 36 回および第 37 回研究発表大会において研究・イノベーション学会を新たに含め、以下の学会や団体との協賛大会とすることとした。

協賛：一般財団法人 エンジニアリング協会、公益社団法人 化学工学会、一般社団法人

情報サービス産業協会、一般財団法人 日本科学技術連盟、日本 SPI コンソーシアム、一般社団法人 日本生産管理学会、特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会、一般社団法人 PMI 日本支部、一般社団法人 プロジェクトマネジメント学会、研究・イノベーション学会、
後援：独立行政法人 環境再生保全機構

以上

第 4 号議案

2023年度 事業収支報告

1. 2023年度の事業収支報告について

本議案では年度事業収支の計画・実績及び差異を説明するので、ご審議の上、ご承認をお願いする。2023年度も前年度に引き続き財政基盤の強化に向けた諸施策を実施した。主に研究発表大会の活性化による論文投稿数の維持、事務業務の効率化等によるコストダウンにより財務基盤を保ち、結果として昨年度に引き続き「繰越金」を確保できた。

2. 会員数の推移説明

表 1 に、事業収入のベースとなる会員数の計画と実績の差異を示す。学生会員は増加したが正会員は減少した。法人会員数に変化はなかった。財政健全化のためには、正会員と法人会員の増加に向けた施策を行う必要がある。

表 1 会員数の推移（実績 B:2024 年 3 月末時点）

会員区分	2021 年度末実績 (参考)	2022 年度末実績 A	2023 年度末実績 B	差異 B-A
正会員・名誉会員	158	163	158	-5
学生会員	18	15	25	10
法人会員	4 社	5 社	5 社	0

①正会員数

正会員の高齢化ならびに学会活動と通常業務との関係性が薄れたという理由による退会者が増えたため、前年よりも 5 名減少した。引き続き、会員の増強に努めていく。

②学生会員数

正会員への移行や課程修了等の理由から学生会員数は減少したが、それを上回る新入会委員があり、3 月末時点で 9 名の増加となった。将来学会を牽引する若手会員を維持するため、魅力的なテーマ選定を行うなど、引き続き学生会員の増強を図っていく。

③法人会員数

法人会員数は各社財政が厳しいためか、前期からの増加はなかった。法人が必要とする社員のリスキリング要望に合致した活動行うなどによって、引き続き勧誘努力を続ける。

3. 事業収入

表 2 は事業収入の計画・実績差異の集計である。2023年度の事業収入は、春季研究発表大会はハイブリッド開催で参加費を値下げしたので計画に対し低い結果となった。秋季大会では、独立行政法人環境再生保全機構（ERCA）から 27 名の参加があったことにより計画を上回る実績が得られた。学会誌発行事業は掲載論文が大幅に減少したため計画に

対し低い結果となった。しかし、法人会員の株式会社 JOA ホールディングスから 30 万円の寄付があったことにより収入は計画よりも 29,440 円高い結果になった。

表 2 2023 年度事業収入計画と実績（単位：円）

収入項目	2023 年度計画	2023 年度実績	差異
	A	B	C (B-A)
1. 前年度繰越金	7,471,162	7,471,162	0
2. 年間会費・入会金	1,800,000	1,962,000	162,000
3. 春季大会開催事業	450,000	390,000	-60,000
4. 秋季大会開催事業	450,000	578,000	128,000
5. 学会誌発行事業 a	900,000	300,000	-600,000
6. 前払金・利息・他 b	0	99,440	99,440
7. 寄付	0	300,000	300,000
8. 収入の部 合計	11,071,162	11,100,602	29,440

a：Vol.17-No2, Vol.18-No1論文掲載料

b：次年度前払金（年会費・大会参加費）と受取利息・他

4. 事業支出

表 3 は 2023 年度の事業支出の計画・実績差異の集計である。2023 年度は上記 3 の事業収入に見合う支出となった。今年度も外部委託を極力削減し、学会内部で作業を実施する方針で運営した。結果として予備費は一切手をつけずに運営することができた。

表 3 2023 年度事業支出計画と実績（単位 円）

支出項目	計画	実績	予実差異
1. 学会組織運営	500,000	557,380	-57,380
2. 事務所設置経費	600,000	564,490	35,510
3. 春季大会	427,385	403,185	24,200
4. 秋季大会	600,000	565,286	34,714
5. 学会誌発行	600,000	334,000	266,000
6. P2Mマガジン発行	600,000	395,000	205,000
7. セミナー実行	200,000	42,000	158,000
8. 表彰感謝状	200,000	95,787	104,213
9. 研究・研修・普及資料	0	0	0
10. 会員サービス活動費	50,000	0	50,000
11. 一般社団 税	80,000	80,000	0
12. 予備・手当	100,000	0	100,000
13. 支出合計	3,957,385	3,037,128	920,257

当学会会計責任者が作成した「国際 P 2 M 学会 2 0 2 3 年度決算書」として（１）損益計算書と（２）貸借対照表を別紙に添付した。本決算書は学会監事の監査により承認済である。
会員のご支援に感謝し、引き続き一層のご支援をお願いする。

以上

第 4 号議案（別紙添付）

（１）損益計算書（但し、2023年3月1日～2024年2月29日まで）

		(単位：円)	
収 入		支 出	
前期繰越	7,471,162	事務運営費	557,380
年会費・入会金	1,962,000	業務委託費（国際文献社）	564,490
春季大会	390,000	春季大会	403,185
秋季大会	578,000	秋季大会	565,286
論文掲載料	300,000	論文（査読・編集等）	334,000
資格試験 受験料・更新料	0	マガジン発行費用	395,000
寄付	300,000	セミナー関連費用	42,000
		会員サービス関連	0
		法人都民税	80,000
前払い 年会費・入会金	9,434	表彰・感謝状関連	95,787
前払い 次年度 春季大会参加費	90,000	その他	
		小 計	3,037,128
利息他	6	総合収支	8,063,474
合 計	11,100,602	合 計	11,100,602

（２）貸借対照表

		2024年2月29日現在	
		(単位：円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	8,278,424	年会費前受金	
普通預金（SMBC飯田橋支	801,113	春季大会 参加費前受金	90,000
郵便振替預金（文京関口一	7,477,311	学会誌文掲載料 前受金	
現金			
		流動負債合計	90,000
		1. 固定負債	
流動資産合計	8,278,424	固定負債合計	0
		負債合計	90,000
1. 固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	前期繰越正味財産	7,471,162
		当期正味財産増加額（減少額）	717,262
		正味財産合計（正味負債）	8,188,424
資産合計	8,278,424	負債及び正味財産合計	8,278,424

監査報告書

国際P2M学会の2023年度の決算報告書を詳細監査しました結果、すべて適正に処理されており、正確であることを確認しましたので報告いたします。

令和6年（2024）3月31日

監事 白井久美子 

第 5 号議案

【2024 年度の基本方針と活動計画】（案）

（事業期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

1. 基本方針**国際 P2M 学会の 2 つのミッション**

本学会は、

オーナーの視点に立って、経営システムと技術システムを統合するプログラムマネジメントの知識体系の深化と実践研究を推進する事により共存共栄の持続可能な社会の構築に貢献する。

本学会は、

組織の全体使命のもとで複数のプロジェクトを有機的にマネジメントし、創造的統合マネジメントスキル手法を活用して、構想（スキーム）・構築（システム）・運営（サービス）が連結した（3S モデル）構成からなるプログラムマネジメントの知識体系を社会に提供する。

国際 P2M 学会の 2 つのビジョン

1. **国際社会への発信：**日本が世界に遅れを取っているビジネス効率性の低い要因である経営プラクティス分野の強化のためにプログラムマネジメントの知識体系が有効であることを具体的に社会に発信する。環境や省エネルギー分野での日本の国際的展開を支援するために国際協力事業におけるプログラムマネジメント知識体系の確立を目指す。

2025 年創設 20 周年に東京で ASCON-IEEChE2025 開催に向けた準備を進めると共に、P2M マガジンの英語版ダイジェストを発信しプログラムマネジメントセッションで海外に日本版のプログラムマネジメントの有効性を示す。

2. **人材育成への貢献：**政府のリスキリング支援のなかで、マネジメント人材育成支援を学会の方針として、各種教材作成、電子出版、オンライン講義配信、講習会企画、社会人博士人材育成、若手マネジメント人材育成のための活動を行う。学会としてリスキリング支援の公的支援資金に応募し、学会財政基盤の確保と専従事務職員の確保を目指す。

社会人の会員数と法人会員の増加と協賛企業数の増加に繋がる魅力有る企画を目指す。特に社会人博士人材育成を強化するため、論文指導の支援を行うとともに、対象として、企業会員だけでなく、政府系の職員の高度専門職人材育成のための支援を目指す。

2. 活動計画

2 つのビジョン実現のため、2024 年度は以下の活動を行う。

2. 1 ステアリングコミッティ（運営委員会）を中心にした 4 つの委員会の連携活動

研究発表大会の企画、論文誌の編集、P 2 Mマガジンの企画、セミナー企画の 4 つの活動を行う委員会と連携して、月 1 回の会合を行い、学会が目指すビジョンの達成に向けて前進する。

2. 2 社会人のマネジメント教育強化のためのリスクリング教育教材の作成

PMAJ との連携を深めるとともに、マネジメント教育を行っている大学と連携し、マネジメント力養成を必要としている企業とも連携して、国のリスクリング教育支援を活用して、産学官連携でプログラムマネジメント教育の強化と高度専門職職員としての博士号取得に繋がる支援活動を行う。

2. 3 株式会社 JOA ホールディングとの連携によるマネジメント教育の展開

久保副会長主導の下、株式会社 JOA ホールディングと連携して、社会人向けの WEB 動画やシンポジウム、講演等の方法で社会人のリスクリング教育支援を行う。

2. 4 研究発表大会の企画と実行

(1) 第 37 回春季研究発表大会

開催日 : 2024 年 4 月 20 日 (土)

開催校 : 千葉工業大学 津田沼キャンパス 7号館4階

開催形式 : 会場と配信のハイブリッド

基調講演 : 題目: 教育改革による大学力強化

講演者 : 小宮一仁氏 (千葉工業大学学事顧問/工学部教授)

ラウンドテーブル

テーマ 1 【現地会場開催】: GX 人材育成のプログラムマネジメント
オーガナイザー: 久保裕史 (国際 P2M 学会)

テーマ 2 【ハイブリッド開催】: P2M で語る地域活性化
オーガナイザー: 岡田久典 (早稲田大学)

テーマ 3 【ハイブリッド開催】: P2M を活用した現場改善
オーガナイザー: 小笠原秀人 (千葉工業大学)

実行委員長: 千葉工業大学プロジェクトマネジメント学科 教授 小笠原秀人

実行副委員長: 千葉工業大学 経営情報科学科 教授 新谷幸弘

大会企画委員会委員長：沖浦文彦（大阪経済大学 国際共創学部 教授）

大会企画委員会副委員長：小笠原秀人（千葉工業大学 社会システム科学部教授）

予稿集編集委員長：中野健太郎（早稲田大学環境総合研究センター 主任研究員）

（2）第38回秋季研究発表大会企画案

日時：2024年11月9日（土）

開催校：青山学院大学 青山キャンパス

開催形式：会場と配信のハイブリッド

テーマ：「SDGs/ESG/CE サステナビリティと P2M」

実行委員長：青山学院大学 経営学部 教授 玉木欽也

実行副委員長：青山学院大学 経営学部 教授 中邨良樹

大会企画委員会委員長：千葉工業大学 社会システム科学部 教授 小笠原秀人

大会企画委員会副委員長：東京都市大学 環境学部 教授 岡田公治

千葉工業大学 社会システム科学部 教授 新谷幸弘

予稿集編集委員長：名古屋工業大学ものづくり DX 研究所 客員研究員 加藤智之

2. 5 国際 P 2 M 学会誌の編集と発行

春季研究発表大会および秋季研究発表大会の投稿論文の中から学術的に優れた論文を選定して査読を行い、2024年9月に19巻1号、2025年3月に19巻2号を発行する。

編集委員会：武富為嗣（委員長）、加藤智之（18巻1号の編集責任者）、中野健太郎（19巻2号の編集責任者）、論文査読委員

2. 6 P 2 M マガジンの企画と発行

- ・ P 2 M マガジン編集委員会：亀山秀雄（委員長）、吉川 厚、中山政行、李洸昊、新たな編集委員2名程度増やす）

本マガジンを学会外部からの情報も取り入れるプラットフォームと位置づけ、春季大会と秋季大会のテーマと関連した特集を組むこととし、年2回の発行を目指す。

21号特集 「ラウンドテーブル特集」（原稿締切5月10日発行定）

3つのラウンドテーブルの内容紹介の特集を行う。並列に開催されるため、参加できないラウンドテーブルもある。そのようなことからラウンドテーブルでの議論の内容を広く広報して会員に知らせると共に学会参加の魅力を非会員の方にも知らせることを狙いとする。

記事内容：ラウンドテーブルで講演される方に原稿依頼して掲載すると共に、各テーマのはじめにラウンドテーブルの司会をされた方に議論のまとめの報告記事を書いて頂く。

テーマ1：GX人材育成のプログラムマネジメント

執筆者：久保裕史（国際P2M学会、オーガナイザー）、ショートプレゼン5名

テーマ2：P2Mで語る地域活性化

執筆者：岡田久典（早稲田大学、オーガナイザー）、パネラー4名

テーマ3：P2Mを活用した現場改善

執筆者：小笠原秀人（千葉工業大学、オーガナイザー）、パネラー2名

21 号以降(予定)

2025 年 1 月 22 号特集 秋季大会のテーマに関連した特集

2025 年 6 月 23 号特集 春季大会のテーマに関連した特集

2026 年 1 月 24 号特集 国際 P2M 学会設立 20 周年記念特集号

P2M の海外紹介用に今までの P2M マガジンの記事から選択して英語版 P2M マガジンダイジェスト版を作成し、オンラインで海外に紹介する。

2. 7 セミナーの企画と実行

社会人のリカレント教育およびリスキリングの社会需要に合わせて、セミナー動画や、P2M 初心者向けの対面セミナーを企画・運営する。ライブラリの内容の充実を図るとともに、産官学連携研究会と連動するセミナー企画（公開シンポジウム、成果報告、出版、リカレント教育、e ラーニング等）の可能性を検討する。

セミナー企画委員会：久保裕史（委員長）、玉木欽也（副委員長）、岡田久典（副委員長）、大和田順子、亀山秀雄

2. 8 表彰活動

表彰規程に基づき表彰委員会を組織して、会員から、学会賞、研究奨励賞、教育功労賞、学会活動功労賞の表彰者の推薦を募集し、それらを元に検討、審議して、各受賞者を決定し、表彰する。

2. 9 学会誌の DOAJ(Directory of Open Access Journal)への掲載の広報

査読論文誌の英国の認証 DOAJ への掲載、著作権の取り扱い（C.C. ライセンスの明示）などの規程の見直しが昨年度終了したことを P2M マガジン、ホームページ等を通じて学会員への教宣活動を行う。

・学会誌品質改善チーム：田隈広紀（責任者）

2. 10 プログラムマネジメント専攻の設置活動

社会人の博士号取得を加速するためのプログラムマネジメント専攻の博士課程連携大学院設置（東京農工大学を幹事校予定）に向けた準備活動を行う。プログラムマネジャー人材を必要としている日本のSBIR制度の改革と連携して進める。

4月中に設置計画案を作成し、国際P2M学会参加大学、東京農工大学、関係有識者に説明を行い、設置に向けた活動を行う。

3. 学会業務の平準化

各担当業務の稼働の平準化をはかり、担当者のインセンティブと責任のバランスが取れるように配慮する。

以上

第 6 号議案

2024 年度事業収支計画（案）

2024年度の事業期間は2024年4月1日～2025年3月31日であるが、過去の事業収支計画の期間に準じて予算計画は、2024年3月1日～2025年2月28日とし、以下を提案する。

1. 会員数予測と前提

前年度会員数を基礎に本年度の努力目標を下記に設定する。目標実現に向けて会員のご協力とご尽力をお願いする。

表1 2024 年度会員目標

会員区分	2024 年 3 月末実績	2025 年 3 月末会員目標
正会員	154 名	160 名
学生会員	25 名	25 名
法人会員	5 社	6 社

2. 2024年度事業収支計画

2024年度の事業収入は、会員数ならびに春季・秋季大会参加者数の予測等を前提に事業収入を計画した。表2は当該年度の事業収入に前期繰越金を参入したものである。

表2 2024年度の事業収入計画（単位 円）

事業収入項目	収入計画	概要
1. 年会費	1,840,000	210名(正会員160、学生25、法人6) (注1)
2. 春季大会開催事業	605,000	60名 (正会員45、学生5、非会員10) (注2)
3. 秋季大会開催事業	605,000	60名 (正会員45、学生5、非会員10) (注2)
4. 学会誌発行事業	900,000	30編 (No.1 : 15編、No.2 : 15編)
当該年度収入合計 (あ)	3,950,000	
5. 前年度繰越し金	8,188,424	
収入の部 総計 (A)	12,138,424	

(注1) 納入率：正会員90%、学生80%を想定

(注2) 正会員10,000円、学生5,000円、非会員13,000円

表3は今年度の活動計画を反映した支出計画である。表1の会員数を前提とした表2の収入計画を実現し、表3の支出計画の範囲で効果が十分期待できる活動に注力していく予定である。なお、支出の上限は、2023年度第3回理事会・評議委員会（2023年

11月12日開催) で了承された「予算支出計画は当該年度の収入計画と実績に対応したものを作るべきである」という考え方にもとづき、支出の上限額を収入計画395万円の110% (434.5万円) とする。

表3 2024 年度支出計画 (単位 円)

事業収入項目	支出計画	概要
1.学会組織運営費	770,000	理事会等運営、会計業務、メールアドレス管理、備品購入等
2.学会事務所設置経費	600,000	国際文献社へ委託(学会事務所設置、会員管理、年会費納入管理等)
3.春季大会開催費	635,000	会場費、予稿集編集、講演謝礼、HP運用、大会出納管理等
4.秋季大会開催費	635,000	同上
5.学会誌発行費用	350,000	論文査読、論文誌編集、公開に係る事務費
6.マガジン発行費用	360,000	原稿料、編集作業、公開に係る事務費、会議費等の費用
7.セミナー開催費用	220,000	Youtube配信に使う教材作成、講師謝礼等
8.表彰感謝状制度関係費	100,000	表彰状・感謝状の作成や記念品・副賞等の費用
9.研究・研修・普及資料作成費	30,000	研究活動費並びに研修及び普及に向けた資料作成費用
10.会員サービス活動費	30,000	BOX導入など会員の利便性向上を図るための費用
11.一般社団 税	90,000	一般社団に関わる法務局や東京都に関する費用や税
12.予備・手当	130,000	インボイス対応、大会参加者数変動等への引当準備
当該年度支出合計 (い)	3,950,000	上限を収入計画の1.1倍 (434.5万円) とする
13. 次年度繰越し金	8,188,424	
支出の部 総計 (B)	12,138,424	

事業収支計画を表4に示す。

表4 2024年度事業収支計画 (単位 円)

項目		金額
収入計画	当該年度収入 (表2 あ)	3,950,000
支出計画	当該年度支出 (表3 い)	3,950,000
収支計画	前年度繰越金	8,188,424
	年度収支 (あーい)	0
	翌年度繰越金	8,188,424

支出が収入計画の1.1倍(上限値)になっても、次年度への繰越金は7,793,424円となり、2023年度当初の繰越金7,471,162円と同程度の額におさえることができる。

上記の収支計画のご承認をお願いする。

以上

第 7 号議案

2024 年度人事（案）

以下の人事案につきまして、ご審議をお願いします。

（１）理事（審議事項）

① 退会にともなう理事の退任

理事退任 佐藤達男

② 新任理事の推薦

候補者 白井久美子 現在当学会の監事

（２）監事（審議事項）

① 理事就任にともなう監事の退任

監事退任 白井久美子

② 新任監事の推薦

候補者 石川千尋

以上

報告事項

2023年度表彰者

表彰委員会

国際P2M学会の2023年度表彰者を、表彰委員会（委員長、副委員長、委員 計5名）が、正会員からの推薦書をもとに検討した結果、以下の通り決定した。

学会賞：武富 為嗣

研究賞： 関口 幸治

研究奨励賞 : 加藤 智之

教育功勞賞：越島 一郎

学会活動功労賞 : 和田 義明、 白井 久美子

國際交流賞：李洸昊

以上